

# 狛江市における小児期からの 成人病予防のためのコホート調査 ～ 2年経過時の居住状況～

(分担研究：小児期からの健康増進対策に関する研究)

住 友 眞 佐 美

要約：小児期からの健康的なライフスタイルのあり方を検討するための、コホート調査対象者の居住状況の追跡・確認を行った。初回調査から2年を経過した時点での居住状況では、19.2%がすでに市外に転出していた。

見出し語：コホート調査、居住状況、追跡

## 【はじめに】

東京都狛江市において、生活習慣・食習慣に関するコホート調査を、平成34年度に実施した。狛江市に在住の3歳児健診対象者（平成元年4月2日～平成2年4月1日生まれ）553名に調査を行い、474名からアンケート調査への協力が得られた。3歳時点での生活状況調査についてはすでに報告したが、今年度は調査対象者のその後の居住状況を追跡したので、概況を報告する。

## 【調査方法】

コホート対象者（平成元年4月2日～平成2年4月1日生まれ）の住民基本台帳より、平成7年1月1日現在の住所を確認し、前回の調査以降の転出入について集計した。

---

東京都武蔵調布保健所

(Tokyo Metropolitan Musashichofu Health Center)

【調査結果】

1 居住状況

居住状況は、表1に示すとおりである。3歳児調査で有効回答を得た474名のうち、現在も引き続き狛江市内に居住している者は383名（80.8%）であった。市外に転出した者は91名（19.2%）で、転出先の住所は確認できていない。また、3歳児健診未受診者で、引き続き狛江市に居住している者は70名、3歳児健診後に転入して来た者は75名であった。

以上のことより、転出等で狛江市から住所がなくなる者は、1年間に10%程度であると推定される。いろいろな事情で狛江市内の小学校に入学しない者もあると予測されるので、3歳からスタートしたコーホートで、小学校入学年次の調査が可能なのは約350名で、3歳児調査協力者の73.8%程度になると思われる。

表1 生活状況調査協力者（3歳児）の平成7年1月1日現在の居住状況

生まれ月	3歳児調査 受診者数	平成7年1月1日現在居住している者			計	転出者
		調査受診者	調査未受診者	転入者		
4月	33	26	5	13	44	7
5月	44	33	2	6	41	11
6月	36	28	5	2	35	8
7月	47	39	7	4	50	8
8月	41	34	6	8	48	7
9月	36	33	6	7	46	3
10月	48	38	10	8	56	10
11月	43	35	6	6	47	8
12月	46	36	2	8	46	10
1月	42	32	7	3	42	10
2月	34	27	2	7	36	7
3月	24	22	12	3	37	2
計	474	383	70	75	528	91

### 【今後の研究計画と課題】

狛江市の調査においては、積極的な健康教育による介入は行わない予定である。コーホートの対象となっている幼児は現在5歳で、小学校に入学予定の平成8年度に小学校1年時の調査を実施する。

また、平成7年1月1日現在の転入者は75名、3歳児健診未受診者は70名居住しており、平成8年度の小学校入学児童の約27%を占める。これらの児童は、現在のコーホートの対象とはならないが、小学校で調査を依頼する場合には、児童全員に調査する方が協力を得やすいので、現実には調査を実施することになる。したがって、3歳児健診以降の転入者や健診未受診者を、新たなコーホートとして調査の対象とするか、検討する必要がある。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:小児期からの健康的なライフスタイルのあり方を検討するための、コホート調査対象者の居住状況の追跡・確認を行った。初回調査から2年を経過した時点での居住状況では、19.2%がすでに市外に転出していた。